

# 【保存版】「教えない」からうまくいく！ 小学校英語・家庭の付き合い方ガイド ～親のプレッシャーをゼロにし、子の好奇心に火をつける～



## 家庭は「第2の教室」ではなく「安心の拠点」

小学校で英語が本格化した今、家庭で最も大切なのは「英語を教えること」ではなく、「英語を嫌いにさせない環境」を作ることです。親が頑張りすぎることは、時に子供への重圧になります。このガイドでは、親の余力と子供の状況に合わせた3つのステップを提案します。

## Step 1：親も子も「頑張らない」時期（プレッシャー・ゼロ）

仕事や家事でクタクタ、子供も学校で疲れている。そんな時は「何もしないのが最良の教育」です。



## あえて何も聞かない、教えない

学校の授業について問い詰めるのは「抜き打ちテスト」と同じです。子供が自分から話したくなるまで、そっとしておく「待つ勇氣」を持ちましょう。



## 親自身が「楽しむ背中」をチラ見せする

親が英語の本をパラパラめくったり鏡の前で自分の機嫌をとる英語を言ってみたりする姿を見せるだけ。

例：鏡に向かって「I did a great job today!」（私、今日も頑張った！）

親が楽しんでいる姿は、どんな教材よりも子供の好奇心を刺激します。

♪「ながら」で音を流すだけ

親が聴きたい洋楽や海外の料理動画をBGMにする。これだけで「英語のある日常」が自然に作れます。



## Step 2：親子のエネルギーがある時（小さな関わり）



少し余裕がある時は、親が「完璧な大人」を脱ぎ捨てて、子供と同じ目線に立ってみましょう。

### 「わからないふり」や「わざと間違える」

親が「教える側」ではなく「教わる側」に回ることで、子供の**自己肯定感が爆上がり**します。

「教えて！」（無知のポーズ）：  
「これって英語で何だっけ？」と子供を先生にする。



「どっちだっけ？」（迷いのポーズ）：  
わざとカタカナ発音をして「あれ、今の変だった？お手本見せて」と頼む。



### 「へえ～、そうなんだ」で十分

子供が英語の話をしてきたら、深掘りせず「今の学校はそんなことまで習うんだ、すごいね」という相槌だけで十分。



**へえ～すごいねと、認められることが**、次のやる気に繋がります。



## Step 3：親子で遊べる関係ができている時（アウトプットの実践）

お子さんが英語に興味を持ち、親子で遊ぶ余裕があるなら、以下の「性格別アプローチ」を試してみてください。



### 自信满满型

「ミニ授業」を開催してもらおう  
親がノートを持って生徒役で  
子どもに教えてもらう

**知識の定着とリーダーシップ**



### 慎重・完璧主義型

「一緒に間違える」  
親が失敗する姿を見せて  
「間違えても大丈夫」を伝える

**失敗を恐れない心**



### 遊び好き型

「クイズ対決」  
身近なものを英語で言う  
速さを競い、親が僅差で負ける

**瞬発力と英語で楽しむ感覚**



### 控えめ型

「独り言にポジティブ反応」  
子供の呟きを逃さず、ほめる  
「今の発音すごくいいね」など

**潜在的な自信の掘り起こし**

## 仕事・家事・育児で限界なあなたへ

「あえて教えない」「そっとしておく」のは  
手抜きではなく「高度な戦略」です。

毎日を生き抜くだけで、あなたはすでに  
100点満点の親です。英語教育のために  
これ以上自分を削る必要はありません。

親がリラックスして笑っていること。  
それが、子供の脳を最も活性化させ  
学びを吸収しやすい状態にします。

**一番の英才教育は、親の笑顔です。**  
お子さんの「英語の扉」を、焦らず  
ゆっくりと一緒に見守っていきましょう。

